

単元名	書き表し方を工夫して、経験と考えを伝えよう ～70周年記念式典に、校舎の「思い」を綴ろう～
学習材名	「大切にしたい言葉」（光村図書6年）
授業者	国立市立国立第二小学校 主任教諭 山崎 由紀子

- 1 挨拶 東京都小学校国語教育研究会多摩地区研究会会長
青梅市立若草小学校 山崎 尚史 統括校長
- 2 会場校校長挨拶 国立市立国立第二小学校 小林 理人 校長
- 2 提案および経過報告 国分寺市立第五小学校 加藤 美穂 主幹教諭

3 授業者自評

今回この単元に挑戦して、自分の学びにつなげることが出来た。

クラスには書くことが苦手な子供がいて、いつもなら「書きたくない」と言っていたのが、今回「校庭の事を書きたい」と言ってきた。その子供が最初の振り返りシートに「やりきる」と書き、以後、頑張り続けてきた。家庭でも「僕、作文が楽しくなってきた」と語ったことを、保護者の方が連絡帳で知らせてくれた。このような変化が起こることは、すごい事だと思った。

書くこと部でアドバイスをいただいたことは全て効果があった。

まず、環境整備の面では、随筆はどんなものか分かってもらうために、学級文庫として随筆を置いた。これぐらいのことが書ければ良いことが子供たちの中で見通しもつことが出来た。また、「類語辞典」の設置は初めての試みだったが、子供たちはよく活用してより良い表現を見つけることに役立っていた。

さらに手元には評価シートがいつもあることも、振り返りながら見通しをもつことができていた。ただ評価シートは自分で作るということで、概要を省き教師の質問しか入っていないシートに文言を考えさせたが、思っていたのと違う内容になってしまい、こちらが軌道修正することもあり、評価はまだ課題があると感じた。

図工とも連携をして、思い出の場所の絵を描いた。その時間では、思い出の場所に向き合う姿勢や絵をもっと良くしていこうとする姿勢が見られた。図工で4時間その場に居たので、十分思い出す作業ができ、その場所への思いを高めることができた。また、図工で絵を描くときにそのときに思い出したエピソードをメモしておくという細川先生のアドバイスを受け、ジャムボードでメモしたものを班で交流し、掲示した。後に分析シートを書くときに、これを参考にする子供が多くいたので、やって良かったと思った。

子供の評価で ABCD 規準のそれぞれの子供の思い出分析シートと評価シートでそれぞれの声掛けや支援に役立てた。今回は、このことが学習改善や授業改善につながる活動の工夫につなが

ったと感じた。そしてどの子供も自己評価は良かった。特にこの評価シートでは、教師が意識して欲しいことを質問形式で書くことで、子供もこの質問に対して答えるという形で、不安、振り返りがおざなりになってしまう子供も充実した振り返りをすることができたと思う。子供にとっても学習過程がよく把握できる結果になった。導入段階では「書きたくない」と言っていた子供が5人ぐらいいましたが、時間を重ねるごとに「書きたくなってきた」「書ける気がしてきた」といった変容を見ることが出来た。

課題は評価が難しいところである。子供が分かったことや出来たことが書けていたら技術面の評価、工夫したこと等が書けていたら思考や表現の評価、やる気になったことが書けていたら学びへ向かう評価、それらを記述形式で子供に書かせてみることで進めていった。確かに子供の自己評価では向き合うことが出来たが、教員がこの子供をどれだけ見ることが出来るのかが難しい。書くことの毎時間の評価について他の方のお話をお聞きしたい。今回の部会での評価活動の工夫として、この自己評価と教師が学習状況を把握して個別指導に生かすということでやってきたが、最終的に通知表の評価の仕方や評価をどう生かしていくかが難しいと感じている。

推敲では、子供が文章を推敲したものを青色で書き込み、教員は赤色で書き込んだ。ポイントをしばって推敲することができた。

5 協議

「評価について」

【意見・質問】

- ・自分も評価についてはいつも悩む。やはり書いたものの完成版を読んで評価している面が多いが、過程を見て評価につなげていくことが大事であることが、今回勉強になった。評価については自分も質問したい。
- ・部会で評価規準について考えたつもりだったが、こうだったらA評価という具体的なところを集めておけば良かったと思う。
- ・準備していただいた資料がとても分かりやすく、授業もたくさんの工夫が詰まっていた。評価シートでは教師が立てた部分と子供が立てた部分でいろいろ難しかったとのことだが、大事なところである。どの子供にも身に付けさせたい力の共通部分はある。また今日の自分のめあてを立てさせることで、自分の振り返りができることは主体的な学びに向かっている。
- ・6年生の子供達は真摯に文章を紡ぎ出していこうとしている姿勢が素晴らしかった。これまでの緻密な準備を緻密な計画が本時に表れている。自分も今まで、書き上がったもので評価してきた。今回の評価を授業で関連させて使っていけたら良いと思った。
- ・最初に「伝わるように工夫する」と教師が伝えたことを子供はそれぞれやっていた。自分で書いた分析シートを指で差して確かめながら書いたり、読み返して書いたりしていた。
- ・評価では粘り強さ、というのがよくある。しかし、その前に子供のやる気というものが大事だと思う。今回は分析シートや評価シートに赤で教師の声掛けに相当するコメントがあって、子供達のやる気につながっていたように思う。

- ・綿密な計画のもので、自分のやることが明らかで書きたいという意欲があったときは、その指導のもとに自己評価がその都度出来ていく。全体でここまでやったことについての評価があるが、個人内評価として自分なりにがんばったことや進歩したことを評価できると思った。

6 講評 (都小国研顧問 成家亘宏先生)

- ・本日は、大変すばらしい提案であったことを評価したい。
- ・事前準備が大変良かった。テーマに結び付く資料が充実していた事、評価の工夫を十分に考えたこと、学級経営的な面でも教師と子供の関係が非常に良かった。

○授業について

- ・文例の検討にもう少し時間をかけた方が良い。
簡単にする文章と詳しくする文章の表現の仕方を、時間をとって子供たちに理解させていく必要がある。5・6年生の学習指導要領の指導事項に即した内容を授業に取り入れると良い。
- ・字数制限について
750字で書くことを先に提示して、そこを目指すのか、多く書かせて750字にまとめさせるのか。私の考えは、字数制限は原則的に行わない方が良いと思う。書きたいという気持ちを大事にしてあげたい。子供の書きたい意欲を削がないようにしたい。
- ・「作文名人への道」を示していること、類語辞典を活用して語彙を増やそうとしていることは大変良かった。
- ・提案資料が大変参考になった。資料は具体的でわかりやすい表現で示されていた。
①環境整備②図工との連携③ジャムボードでの交流④構成メモ

○評価について

- ・書くことの評価は大変難しいが、一言で言ってしまえば、教師が設定した評価規準にどう近づいていっているのかを見ていくことが書くことの評価である。
- ・子供の今まで書いた蓄積したものを記録にとり、それを参考に評価をする。今回の提案では、質問形式で評価シートを用意して振り返ることで子供が自己評価をし、教師もその評価につなげることができる。こういう子供の記録したものを取っておいて、それを評価に生かすことをポートフォリオ評価と言う。

○今回の授業についてのまとめ

- ・子供が書きたいと思うような題材について
今回は70周年に向けて思い出の場所について書くというのは大変良い題材であった。
- ・字数制限について
随筆風に書くとかくことで、字数制限をしない方が良いと思う。
- ・適切な文例の開発と提示のタイミングについて

能力の低い子供にとって文章を簡単にすることや詳しくすることは、どうすればよいか理解出来ているか心配である。簡単に書くところと詳しく書くところの違いというもの鮮明になるような文例を考えていく必要がある。

・コロナ禍における交流と共有のあり方

学校によって交流の仕方はまちまちで、ボード版を使ったりタブレットを使ったりしている。コロナ禍における交流・共有のあり方を工夫していく。

・指導と評価の一体化

評価シートが良く出来ている。一人一人に声をかけている。個別指導の記録表を用意すると良い。

・裏付けをもった準備について

環境整備として随筆を学級文庫で随筆に慣れ親しませていたことが良かった。

事実の紹介や報告にならないように一人一人の学校に対する思いを主催段階で思い起こす作業が必要となる。今までの学校行事等の活動記録の蓄積があるとよい、写真や動画、録音なども用意すると良い。

○授業者より

・字数制限については、はじめはドットの用紙を用意し字数の制限を設ける予定ではなかったが、子供からマスがある用紙が良いとの意見が出た。また図工の絵と一緒に掲示するため750字に制限した。

➡ 6年生ぐらいなら、子供が興味を湧くような色や形のいろいろなタイプの用紙を用意したほうが良い。図工の作品との連携で楽しいものが出来上がると思う。マス目の用紙は避けた方が良い。(成家先生より)

7 謝辞

東京都小学校国語教育研究会多摩地区研究会副会長
町田市立町田第六小学校 薄井 智美 校長

